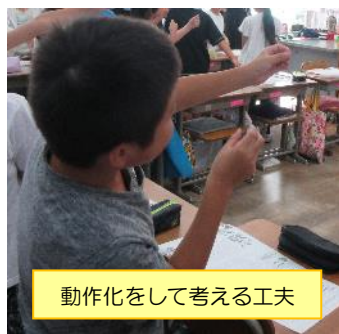


令和元年度東部地区道徳教育研究協議会
 久喜市立栗橋南小学校
【中学年部会】

主 題 名 正しいことは、はっきり言おう
 内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任
 教 材 名 「心にひびくかねの音」
 (学研「みんなのどうとく3年」)



写真を活用した導入



動作化をして考える工夫



構造化された板書

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

【①写真を活用した導入について】

- 児童にとって身近なもので自分事と考えられる導入だった。
- 写真から感じたことを児童から発表させてもよかった。

【②動作化、役割演技などの表現活動について】

- 「つぐみ」の模型など、児童が気持ちを高める工夫があった。
- 役割演技では、児童を揺さぶる発問も必要ではないか。

【③学習全体を通した児童の考えの深まりについて】

- 心情曲線を入れることで構造的な板書となり、児童の考えも深まっていた。
- 児童からは色々な考えが出ており深まりも見られたが、課題に戻る時間もあるとよかった。



2 指導講評

- 本時の授業はねらいに即して価値をしっかりと考えさせる授業であり、授業者の指導観が明確でポイントを押さえた授業だった。
- 話合いの場面では、児童が自己内対話をしたうえで、自分の解をもった話合いが出来ていた。児童の見取りは、人数を決めて見られるとよい。
- 道徳の評価は、多面的・多角的に考えている様子、自分との関わりで深めている様子を見取る。児童が自分のことと捉え、自己の生き方につなげることが大切である。

